

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史まんぼ

—— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 ——

第73回 八どんとむじなの話

八どんは、幼い頃お父さんを亡くしお母さんに育てられていましたが、12歳の頃から人足として引又河岸へ働きに出るようになりました。亡きお父さんも人足だったので後を継ぐ気持ちで見習いになったのです。何年か過ぎると立派な若者に成長し、仕事を任されるようになりました。年の瀬のある日、20キロメートルくらい離れた町によく荷物を届けると、店の旦那が「帰りは寒いで」と、お酒とニシンという魚をお駄賃にくれました。帰り道を急いでいると、「魚をおくれ」という声は何回もして空の車が心なしか重く感じたので、振り向くと荷車にはむじなが乗っていました。八どんは、そしらぬ顔で車を^{かじぼう}引き続けましたが、小川にかかる土橋の上で梶棒を急

に持ち上げ、むじなを小川に振り落としてしました。家に帰り、そのことをお母さんに話すと「むじなもかわいそうに」と心配そうに言います。気になって翌朝土橋に行ってみたところ、むじなはケガをして息も絶えそうな状態でした。心を痛めた八どんは、翌日から土橋の下までむじなを餌を運び続けたのです。こうして八どんとむじなが仲良しになったある日、むじなの周りに5匹の子むじなが駆け回っていました。山から降りて、やっとのことで親を捜し当てたのでしょう。そうか、「魚くれ」と後をつけてきたのはこの可愛い子たちに食べさせてやりたかったのか、八どんは涙がこみあげてきました。八どんは親子が山に帰れるまで、餌を運び大事にしてあげました。土橋はいつのまにか「むじな橋」と呼ばれるようになりました。

明治になって、土橋は石橋に架け替えられ、開化橋と改められましたが人々はむじな橋と呼び続けたようです。

この橋は、総合福祉センター横のバイパス工事の時に移動され、現在は総合福祉センターの駐車場に保管されていますので、ぜひご覧ください。

なお、むじなは穴熊でたぬぎとは違うというのが通説ですが、地域によってはたぬぎをむじなと言っているところも多くあります。



▲（発行：志木市教育委員会）
「文化財まっぷ伝説編Ⅲ」より



がん検診の大切さ

10月に入り、心地よい気候とともに、まもなく紅葉シーズンに入ります。旅行やスポーツ、美味しい旬の食材が豊富に揃う季節ですが、これらを満喫するためには、何よりも健康であることが大切です。

現代社会において、人々の生命や健康を脅かす代表的な病気に「がん」があります。がんは、近年2人に1人がかかる病気であり、日本人の死亡原因の第1位ですが、早期にがんを発見し適切な治療を受けることで、9割近くが治る病気でもあります。

厚生労働省では、胃・肺・大腸・子宮頸部・乳の5つの主要ながんについて、検診による早期発見が死亡率の減少に効果的であることから重点的に受診を推奨しており、がん検診の受診率目標値を60%に掲げています。志木市においても同様の目標を掲げていますが、直近の受診率は、胃がん6.3%、肺がん5.1%、大腸がん6.7%、子宮頸がん13.4%、乳がん16.8%と、目標値を大きく下回っています。

がん検診を受けていない方からは、「健康に気をつけているから大丈夫」「忙しくて時間がない」「お金がかかる」といった声を聞きますが、がんは自覚症状が出た時には進行していることも少なくありません。症状がない早期の段階で見つけれれば、治療の選択肢が広がり身体への負担も少なく、治る可能性が高まります。症状がなくてもがん検診を継続して定期的に受けることが、自分自身とご家族を守る第一歩につながります。

志木市では、がん検診の受診率向上に向けた取組として、対象となる市民の皆さんに対し、お忙しい方でも休日に受けられる集団検診などをお知らせする「がん検診受診勧奨事業」を実施するとともに、経済的なご負担を軽減するため、「無料クーポン事業」や「検診費用助成」を行うなど、多くの方に検診を受けていただける取組を進めています。

10月は乳がんの正しい知識を広め、早期発見・早期治療の重要性を啓発する「ピンクリボン月間」です。志木市役所では、10月7日(水)から9日(金)にかけて、1階市民ホールで乳がん、子宮頸がんについての啓発コーナーや健康チェックを設けるイベントを実施し、女性の健康づくりも応援していきます。

健康とは、いつまでも元気に自分の力で暮らし続けられること。紅葉を楽しみながら、食を楽しみながら、仲間との会話を楽しみながら、ご自身とご家族の健康に向き合っていただければと思います。